

令和4年度第1回 感染症発生動向調査部会  
議事要旨

1 日 時 令和4年4月20日(水) 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 小会議室(岐阜市柳戸1-1)

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志(岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長)

大西 秀典(岐阜大学大学院医学系研究科 小児科学 教授)

澤田 明(岐阜大学医学部附属病院 眼科 臨床准教授)

大野 元(岐阜県産婦人科医会 理事)

石山 俊次(石山泌尿器科皮膚科)

オブザーバー: 市原 拓(岐阜市保健所 感染症対策課 感染症対策係長)

事務局 : 石塚 敏幸(感染症対策推進課 感染症対策第二係長)

山田 涼子(感染症対策推進課 技師)

今尾 幸穂(保健環境研究所 疫学情報部長)

岡 隆史(保健環境研究所 主任専門研究員)

4 議 題 (進行:馬場委員)

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題について
- (3) 情報提供すべき事項
- (4) 情報提供(月番委員専門分野から)
- (5) その他(感染症対策推進課から)

5 議事要旨

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。

【検討すべき課題について】

○梅毒(特に早期顕症)における背景要因、増加について(継続)

- ・昨年と比較して、女性の早期顕症患者の報告数は変わらず少ないが、一方で男性の報告数は増加している。この背景要因について検討したい。

(事務局から)

- ・新型コロナウイルス感染症の発生後から昨年5月くらいまで、男性の早期顕症患者の報告数は減少していました。その後、増加傾向が顕著になり、昨年末時点で例年の約3割増となりました。今後その動向をモニターし、状況によって注意喚起の情報提供を県民に行うことを考えています。

(委員から)

- ・新型コロナ以前は若い女性に梅毒罹患が多く、その世代への啓発が重要と思われた。昨今のデータをみると、従来と状況が変わってきた可能性がある。今後ターゲットの変化などを考慮して啓発していただきたい。

○0歳児における潜在性結核感染について

- ・上記患者の報告数は昨年が2例、それ以前（コロナ出現前）は年間平均約6例であった。今年は現時点で既に5例報告されており、早いペースで増加している。この背景要因について検討したい。

（事務局から）

- ・今年報告された5例の周辺に、感染源と考えられる結核患者はいませんでした。また、この5例に接点と考えられるものはありませんでした。

（委員から）

- ・この件に関しては引き続きモニターし、変化があれば情報提供していただきたい。

○ロタウイルスワクチンの定期接種化（2020年10月）の効果に関する評価について

- ・今後のワクチン利用のデータとするためにも、標記の評価が必要と考える。